



国際理解講座開催



10月15日(木)の総合的な探究の時間に国際理解講座(2学年)を行いました。

今回は福島県男女共生センターの榎田みゆき氏を講師としてお招きし、「男女共同参画社会を考える」をテーマに講演していただきました。



データで見る“男女共同参画”

男女間の格差が少ない国ランキング

1位	アイスランド
2位	ノルウェー
3位	フィンランド
15位	フランス
53位	アメリカ
106位	中国
121位	日本

北欧が多いですね💡

国際指標に見る日本の位置

GGI (ジェンダーギャップ指数)

= 保健・教育・政治・経済の男女間格差

121位/153国

G7 (先進7か国) 中最下位!

※日本の GGI は教育と健康は男女平等であるが

問題なのは【政治】と【経済】



【政治】

国会議員…男性607人 女性103人

女性の割合 約14.5%

福島県議会議員…男性53人 女性5人

女性の割合 約8.6%

郡山市議会議員…男性34人 女性4人

女性の割合 約10.5%

国も県も市も
女性議員が少ない

【経済】

・日本の女性の就労率…69.6%

・日本の男性の賃金を100とした時の女性の賃金割合…75.5%

※OECD 平均…86.8% イタリア…94.4%

フランス…87.0% アメリカ…81.1% 韓国…65.9%

・日本の就業者及び管理的職業従事者に占める女性の割合…

14.9% (就業者44.2%)

※フィリピン…51.5% (就業者37.9%)

アメリカ…40.7% (就業者46.9%)

韓国…12.5% (就業者42.5%)

日本の管理職に女性が少ない → 家父長制の影響

「男女共同参画社会」とは

男女共同参画社会基本法(1999年成立)第2条

男女は・社会の対等な構成員

- ・自らの意思によりあらゆる活動に参加する機会を確保
- ・政治、経済、社会、文化的利益の均等享受
- ・ともに責任を負う

「男らしさ/女らしさ」という思い込み

→ 「自分らしさ」「その人らしさ」

性別にとらわれず、その人らしく生きられるよう多様性を重視する

誰もが生きやすく、一人ひとりが幸せな社会をつくる

なぜ「男女共同参画社会」が必要?

- ・社会状況の変化 ・女性の働き方の変化
- ・仕事だけ、家庭だけという生き方への疑問
- ・これまでの男女の「固定的役割」による社会の行き詰まり
- ・仕事と生活で問題を抱えている人の増加

「男女共同参画社会」実現のために大切なことは…自分の問題として考える・家や学校等での役割分担を見直す
差別用語を使わない・ニュースを見る・選挙に行く など!!